

【試し読み】

中野遙 『キリシタン版 日葡辞書の解明』

(2021年3月25日刊行、八木書店)

- 1 目 次 (i - vi 頁)
- 2 序 章 (1 - 10 頁)
- 3 索 引 (247 - 250 頁)

本書の詳細は下記サイトをご覧ください。

<https://catalogue.books-yagi.co.jp/books/view/2225>

目次

序章 日葡辞書とは	1
はじめに	3
第1節 キリシタン版の辞書	5
第2節 日葡辞書の概要	11
1 現存する日葡辞書	11
a ボドレイ本	11
b パリ本	12
c エヴォラ本	13
d リオ本	14
e マニラ本	14
f アジュダ文庫写本	15
2 これまでの日葡辞書研究	16
3 キリシタン版の活字と日葡辞書の活字	19
キリシタン版の印刷と活字	19
日葡辞書のローマン活字	20
日葡辞書と前期キリシタン版の大文字ローマン活字	24
日葡辞書と後期キリシタン版の大文字ローマン活字	26
日葡辞書の大文字イタリック活字と大文字ローマン活字	28
大文字イタリック活字による大文字ローマン活字代用の背景	31
日葡辞書に見るキリシタン版ローマ字活字	33
4 日葡辞書の概観	34
コラム① 日葡辞書を持つ図書館	40

第1章 日葡辞書の語積	43
はじめに	45
第1節 日葡辞書の語積の特徴	47
第2節 日葡辞書の語積の構造	49
1 語積構造の分類	49
日葡辞書本篇の語積構造	49
「vel」の機能	50
「id est」の機能	51
日葡辞書本篇の「vel」と「id est」の機能	53
『羅葡日対訳辞書』に於ける「vel」と「id est」	54
訓 積	56
置換語積	57
日葡辞書本篇の語積構造のパターン化	58
2 本篇と補遺篇の語積構造の違い	60
日葡辞書補遺篇の語積構造	60
本篇と補遺篇の語積構造	60
本篇の訓積と補遺篇の訓積	61
補遺篇構造の不統一性	62
第3節 訓 積 —ローマ字で漢字表記を表すために—	65
1 日葡辞書訓積と『落葉集』定訓	66
日葡辞書訓積の機能	68
訓積と同音異字見出し語	68
訓積の通読性	71
訓積の語構成依拠性	73
訓積と定訓	74

2	定訓以外の語による訓釈	76
	一字字音語による訓釈	77
	二字字音語による訓釈	79
	『落葉集』非掲載漢字に対する訓釈	80
	定訓以外の字訓による訓釈	81
3	訓釈と置換語釈	83
	訓釈と置換語釈の機能差	86
4	日葡辞書訓釈の機能	88
第4節 「id est」と「vel」—説明と言い換え—		89
1	「id est」と「vel」	90
	「id est」のE	92
	「id est」のD・E逆転の不在	92
2	「id est」による特殊語注記の換言	96
	「id est」と特殊語注記「P.(Poesia)」の併用	97
	「id est」による別語種間の換言	100
3	「id est」とその他の注記	105
	「id est」と置換語釈	105
4	『羅葡日対訳辞書』中の対称性・非対称性	108
5	「id est」の非対称性と「vel」の対称性	111
第5節 特殊語注記		112
	特殊語注記の位置	112
	特殊語注記の語と語釈	115
第6節 ラテン語注記		119
1	日葡辞書のラテン語注記	119
2	「¶」と「Vt」	121
	「Vt」と項目	122
	「¶」「Vt」と「id est」	124

日葡辞書の例示注記のエラー — 「Vt」の例一	125
『羅葡日対訳辞書』に於ける「V」 と 「Vt」	126
3 「Item」 と 「Idem」 の使い分け	128
「v.g.」 と 「sciliet」 の使い分け	131
a 日葡辞書の 「v.g.」	131
b 日葡辞書の 「s. (sciliet)」	132
4 「Vide」 と 「sic」	135
日葡辞書の 「Vide」 の形式	135
「Vide」 の分布	138
「Vide」 による参照先	140
a 参照先見出し語の立項	140
b 「Vide」 の参照先と見出し語の選出	142
c 同義語を参照する 「Vide」	144
日葡辞書の 「sic」	147
第7節 日葡辞書の語釈の構造まとめ	150
コラム② 日葡辞書と節用集	162
第2章 日葡辞書の見出し語	165
はじめに	167
派生見出し語	167
第1節 本篇と補遺篇の見出し語	174
日葡辞書の補遺篇	174

第2節 本篇の日本語と補遺篇の見出し昇格語	176
1 見出し昇格語と新規収録語	178
見出し昇格語の本篇中使用例	180
本篇例文中の見出し昇格語	183
見出し語に立項されない本篇例文中の語	183
本篇例文中以外の見出し昇格語	186
2 本篇「vel」の見出し昇格語	188
3 日葡辞書の「閉じた」性格	191
第3節 補遺篇の重出語	194
1 「*」重出語の機能	194
「*」重出語と本篇同音異字見出し語	196
誤訂機能の重出語	198
2 日葡辞書補遺篇の重出語 — 「*」を持たない重出語—	201
同字異義と同語別形の重出語	201
用例 (Vt) 追加の重出語	202
補遺でも誤訂でもない重出語	203
a 語釈が完全に一致する重出語	203
b 語釈文が異なる重出語	204
c 事故による重出の理由	204
第4節 日葡辞書の見出し語まとめ	208
コラム③ ポルトガル・リスボンのキリシタンの足跡	215

第3章 日葡辞書の編纂方針	217
はじめに	219
日葡辞書「序文」の二重印刷	219
第1節 日葡辞書「序文」の印刷上の特徴	220
匡郭と活字の重なり	220
クワタの有無	221
活字の水平の差異	222
活字の詰め込み	224
第2節 日葡辞書「序文」の二重印刷	225
「序文」後半部と日葡辞書の編纂方針	
一編纂方針上の不備・不統一への弁明記述一	225
訓釈の不徹底	226
見出し語の欠落	229
第3節 「序文」二重印刷の理由	231
終章 キリシタン版日葡辞書の解明	235
参考文献	241
本書で引用したキリシタン文献	241
引用・参考文献	242
初出一覧	245
索引	247

序章 日葡辞書とは

はじめに

「キリシタン版日葡辞書は、イエズス会宣教師による、日本語の見出し語をポルトガル語で説明した辞書である。」

日葡辞書の事を最も簡明に説明すれば、この一文に集約されるだろう。しかし、この一文の中には、既に多くの問題が含まれている。

例えば、日葡辞書の日本語の見出し語は、どのような語であったのか。どのようにして見出し語が選ばれたのか。「ポルトガル語で説明」とあるが、どのように説明をしたのか。そもそも、何故イエズス会は日葡辞書を作ったのか。当時の日本やイベリア半島の辞書と比べて日葡辞書はどのように違い、どのように似ていたのか。そもそも「辞書」とは何か、といったものである。

日葡辞書へのこうした種々の疑問は、これまで正面から答えられた事がない。そもそも、そうした疑問が、(森田武『日葡辞書提要』を除けば)殆ど呈された事すらなかった。日葡辞書は、400年前の日本語がローマ字で書いてあり、しかもポルトガル語による語釈も付いている。それだけで、当時の日本語を知るための利用価値は、絶大であった。そのため、多岐に亘る分野の論文の参考文献として「便利使い」はされてきたが、そもそも「日葡辞書とはどういう辞書か」という疑問は、必ずしも十分には明らかにされてこなかったのである。

本書は、こうした日葡辞書への基本的で素朴な疑問から出発し、それに根拠を明示しつつ解答を与える。

日葡辞書が何をどのように記述した辞書なのか、日葡辞書という辞書が何を目指して編纂・刊行された辞書であるのか、イエズス会はどのような辞書を目指して日葡辞書を編んだのか。本書では、それを日葡辞書原文の実態に基づいた上で、解明する。

本書を読み終えた読者は、日葡辞書が何を指して編纂・刊行された辞書であるか、イエズス会はどのような辞書を目指して日葡辞書を編んだのか、そして日葡辞書が何を達成し得たのか、具体的な用例・論拠と共に、理解される

であろう。

また、日葡辞書は日本辞書史に於いて、またポルトガル辞書史に於いても、当時他に類を見ない大部の辞書であり、言語資料としての価値も大きい。日葡辞書の記述の精確な読解は、ひとり日葡辞書の理解のみならず、中世日本語、中世ポルトガル語の理解に於いても大きな意味を持つ。

日葡辞書は、その隅々まで読むに値する辞書である。しかし、本文 804 ページ、総計約 33,000 語を「隅々まで」読むには、目だけでは不十分であり、また困難である。

そのため本書では、日葡辞書の全文を電子化テキストとし、更にそこに（原文にはない）漢字仮名表記をも補ったデータに基づいて、日葡辞書の全用例・全文字・その（推定）漢字表記を、初めて網羅的、且つ統計的に扱った。

本書の研究は日葡辞書全文の電子データに基づいた調査・考察の上になるものであるが、日葡辞書を電子データに基づいて網羅的に扱った書は、本書が初めてである。

また、日葡辞書に関連する 3 つのコラムも用意した。日葡辞書を持つ図書館とそこでの日葡辞書の保存状態について、日葡辞書と日本側の資料である節用集との接点について、そして、日葡辞書にゆかりあるポルトガルのリスボンに現代見られるキリシタンの足跡についてである。これらのコラムが、読者の日葡辞書の理解をより深める一助となれば幸いである。なお、本書では原則として書名には『 』を用いるが、頻出する日葡辞書には『 』を省略した。

本書が読者にとって、日葡辞書の世界への道標となる事を願う。

第1節 キリシタン版の辞書

大航海時代、イエズス会をはじめとしたキリスト教団体が、布教を目的として編纂・出版した印刷物は、「キリシタン版」と呼ばれている。キリシタン版は、大きく、宗教書・文学書・語学書の3種に大別される。宗教書は、聖人伝やキリスト教の教義を日本語に翻訳して説いたもの、文学書はイエズス会士の日本語の文章の手本として編まれたもの、そして、語学書とは日本語学習に用いられた辞書・文法書類を、それぞれ指す。本書で取り上げている日葡辞書も、このキリシタン版語学辞書の一つである。本節では、日葡辞書も含めたキリシタン版語学辞書について紹介する。

当時のイエズス会には、いくつかの辞書が必要となったと考えられる。

日本イエズス会の宣教師は、ポルトガル出身者を主としつつも、実際にはそれだけではなかった。そのため、共通言語がなければ話は通じない。当時の共通言語はラテン語であったため、ラテン語から引ける辞書が必要となったはずである。しかも、ラテン語の辞書であれば、当時既に多く刊行されており、先行の辞書を参考にすることも難しくなかったと考えられる。

このようなイエズス会に於けるラテン語辞書が必要となった経緯から編纂・刊行されたのが、キリシタン版『羅葡日対訳辞書』（1595、天草刊）である。『羅葡日対訳辞書』はラテン語が見出し語であり、それに対するポルトガル語訳と日本語訳が掲載された、言わば対照語彙リストのような構成をとっている。これによって、共通言語のラテン語から、ポルトガル語・日本語を引く事が出来、ラテン語辞書が必要であったイエズス会に適った辞書となっている。

本来こうした対訳辞書に於ける言語種の切り替えを明示するのに有用なのは、活字の種類（書体）を言語種で替える方法である。実際、日葡辞書では日本語はローマン活字、ポルトガル語はイタリック活字、というように、原則言語種と活字種が対応している。しかし、『羅葡日対訳辞書』ではそれが実現してい

ない。これは、『羅葡日対訳辞書』の編纂時に、良質なイタリック活字を鋳造する事が出来なかったためと考えられる。『羅葡日対訳辞書』の序文の中にはイタリック活字が辛うじて用いられてはいるが、本篇の中では1回も用いられていない。一応のイタリック活字は鋳造されていたものの、本篇の中で活用出来るほどのものには仕上がっていなかったであろう。そこで、『羅葡日対訳辞書』ではそうした活字種による言語種の切り替えを採用せず、言語種が切り替わる直前に「Lus. [(Lusitanice. / ポルトガル語で)]」や「Iap. (Iaponice. / 日本語で)」という省記を用いる事で、言語種の区切りを示すという方法を採用している。

『羅葡日対訳辞書』の収録語数は、日葡辞書のそれには及ばないものの、ラテン語見出し語約 25,000 語、それに対する日本語見出し語は延べ語数 120,000 語、異なり語数 20,000 語とされており、大部の対訳辞書である事には変わらない。

先に、イエズス会はラテン語辞書を編纂するにあたり、先行のラテン語辞書を参照したと述べたが、『羅葡日対訳辞書』は、その標題などにアンブロジオ・カレピーノによる辞書を基に成った事が記されている。カレピーノの辞書の中でも、1580 年前後のリヨン版 Calepinus¹⁾が参照されたであろう事は、原田(2011)が既に指摘している。その標題には更に、Calepinus の辞書の中から「地名・人名を含む固有名詞と他の用例の少ない語を割愛したうえ、語の全ての意味と模範的用法を付け加えた。ラテン語を学ぶ日本の若者及び日本語の習得に努めるヨーロッパ人の使用と便宜のために。」²⁾とある。また、当時の数少ないラテン語・ポルトガル語対訳辞書である Cardoso も、参照可能だったはずである。但し、『羅葡日対訳辞書』は当時の共通言語であるラテン語から、ポルトガル語・日本語へアクセスするものであり、日本語からポルトガル語やラテン語への逆引きは不可能である。

『羅葡日対訳辞書』についての研究は、未だこれから進めるべき点が多く、日葡辞書との関係についても、現時点では日葡辞書が『羅葡日対訳辞書』の辞書としての体裁を踏まえて編纂された、という点が指摘されている位である。日葡辞書と『羅葡日対訳辞書』とは、元となる原典の有無の点からして性質の異なっている辞書ではあるが、その語釈の形式や、日本語・ポルトガル語との訳の対応など、今後研究されていくべき点は多いだろう。

イエズス会は、共通言語であるラテン語の他、日本語の学習にも力を注いでいた。この事は、イエズス会のラテン語辞書（『羅葡日対訳辞書』）に、ポルトガル語のみならず日本語が含まれている事からも分かる。キリシタンたちにとって、日本語を学ぶ事がそのまま、日本での布教に繋がったからである。

キリシタンが日本で効率良く布教を行うためには、現地の言語である日本語を学ぶ必要があった。日本人に説教をしてキリスト教の教えを広めるためには、宣教師自身が日本語を話せる必要があり、また、日本人の告解を理解するためには、告解師は日本語を聞いて理解しなければならない。更に、宣教師として教義を為政者にも説くには、正しく失礼のない日本語を用いなければならない。その一方で、幅広い層の人々の告解を聞き取るためには、庶民が使う俗語も理解しなければならなかった。日本での宣教に当たり、イエズス会が日本語学習に力を注いだ背景には、こうした布教に伴う実用的な理由がある。

こうしてイエズス会では、日本語が分かる辞書も自然と必要になってきたのである。しかし、『羅葡日対訳辞書』は先述の通り、ラテン語から日本語を引く事は出来るが、日本語から意味を引く事は出来ない。そのため、宣教師が知らない日本語を耳にしたとしても、それを調べる事は、『羅葡日対訳辞書』では叶わない。そこで、日本語から意味を引く事が出来る辞書が必要になった。その必要性から編纂されたのが、キリシタン版日葡辞書（1603、長崎刊）である。

本書の冒頭でも紹介した通り、日葡辞書は日本語・ポルトガル語の対訳辞書であり、『羅葡日対訳辞書』では不可能であった日本語からラテン語への探索が、日葡辞書によって実現したと言える。当時のイベリア半島系対訳辞書が小規模なものであった中で、見出し語数が全篇で33,000語を超える日葡辞書の規模は、他に類を見ないものであった。そこに収められている見出し語も、文書語や詩歌語から方言・幼児語・女性語・卑語など多岐に亘っている。当時の日本側辞書（字書）は、漢籍などに用いられているような難解な漢語を和語で開くか、或いは、その漢語の説明が掲載された他の文献（多くは漢籍）を引用するのが基本であり、同時代の口語表現・俗語表現を掲載し説明を施すというようなものではなかった。にも拘わらず、日葡辞書がこうした口語表現や俗語表現を収録したのは、先述の通り、イエズス会に当時の実用的な日本語が布教に必要であっ

たからに他ならない。結果として、日葡辞書の見出し語の中に含まれている口語表現・俗語表現は、中世口語語彙の研究に多くの情報を齎している。

また日葡辞書は、日本に於ける初の近代的体裁を持つ辞書としても特筆される。それまでの日本辞書には、所謂現代辞書のような語釈や用例といった内容は記載されていなかった。語についての説明が付されていても、先にも述べた通り、当時の辞書は別文献からの記述の引用集のような性格が強かった。その中で、日葡辞書は口語を含む多様な見出し語に対して、他書からの引用集ではない所謂語釈を設け、例文や子見出しも付している。日葡辞書の後、こうした近代的な体裁を持つ日本辞書が見られるのは明治期の『言海』まで待つ事になるのであり、日葡辞書の日本辞書史上に於ける存在は大きい。

しかし日本語を見出し語とする辞書を編纂するに当たって、一つの大きな問題が生じたと思われる。それは、表記の問題である。日葡辞書はローマ字活字のみで組まれた、ローマ字本であり、全篇を通して漢字仮名活字は用いられていない。

キリシタン版は、用いられた活字の種類でローマ字本と国字本の2種類に分けられる。ローマ字本は、その名の通りローマ字活字のみを用いて印刷された、横書きの組版によるキリシタン版を指す。一方の国字本は、漢字仮名活字を用いて縦書きの組版によって作成されたキリシタン版を指す³⁾。ローマ字本は外国人イエズス会士の日本語学習用の性格があり、国字本は日本人信徒のための簡明な教義書としての機能を持った。イエズス会側はローマ字表記によって日本語の発音を学ぶ事が出来、日本人は漢字仮名活字によってキリスト教の教えを理解する事が出来た。

国字本の中には、一部の単語のみローマ字活字を用いて、ローマ字活字と漢字仮名活字とを併用するような例も皆無ではない。日葡辞書に於いても、本来は日本語見出し語部分には漢字仮名活字を用い、ポルトガル語語釈部分にはローマ字活字を用いる事を理想としたと推測出来るが、そうした方法を採用した場合の組版の複雑さや紙面の大幅増加といった問題から、断念した可能性が考えられる。結局、日葡辞書は全篇ローマ字活字によって組まれる事となったが、そうなると、先述の通り日葡辞書の日本語見出し語部分にも漢字仮名表記を宛

がう事が出来なくなり、同音異字見出し語を始め、見出し語の区別が困難となり混乱を招く可能性が高まるという大きな問題が生じてしまう。

こうした事から、日葡辞書は見出し語の漢字表記を示唆するための工夫として、訓釈という注記を採用した。訓釈は、見出し語の構成漢字のよみ（原則としては字訓）を用いる事で、読者に見出し語の漢字表記を想起させる機能を持つ（詳しくは、本書第1章第3節参照）。その機能を保証するためには、当然、漢字表記を明示した字書も必要となるが、それは日葡辞書の刊行5年前に、既に準備がされていた。それが、キリシタン版漢字辞書『落葉集』（1598、長崎刊）である。

キリシタン版の唯一の国字本漢字字書である『落葉集』は、「本篇」「色葉字集」「小玉篇」の3部から成っており（前2部と「小玉篇」とは作成されたタイミングが異なる）、これらはそれぞれ、字音引き、字訓引き、部首引きというように、当該漢字を検索する方法が異なる。これは、漢字について、字音のみが分かる場合は「本篇」を、字訓のみが分かる場合には「色葉字集」を、字形しか分からない場合には「小玉篇」というように、漢字にアクセス出来るルートを取って異なるものになっているためである。

キリシタン版の歴史の中での『落葉集』の意義は、大きく2点挙げられる。

一つは、『落葉集』の編纂・刊行に伴って、キリシタン版に於ける漢字活字が大幅に増補されたという事である。豊島（2002）では、『落葉集』と同年に出版された『さるばとるむんぢ』の中で使用される漢字活字種が360字種であるのに対し、『落葉集』は漢字活字2,400字種を収めており、『落葉集』の編纂・出版に伴い、漢字活字種の大幅な追加のなされた事が明らかにされている。その翌年に出版された『ぎやどべかどる』（1599）で新たに用いられた漢字種は僅かに50字種であり、その殆どは『落葉集』で作られた字種であったという白井（2013）の指摘に鑑みても、『落葉集』の編纂・刊行によってキリシタン版国字本の基礎漢字活字がほぼ完成したと言える。『落葉集』は漢字字書であると同時に、キリシタン版に於ける漢字活字リストとしての性格も強い。そのため、掲載されている熟語の中には、どれだけ実用的な語句だったのか明らかでないような語彙も含まれている。また、多くの漢字仮名活字を新鑄する必要があったために、『落葉集』の刊行は1598年まで遅れたとも考えられよう。

そして『落葉集』のもう一つの大きな意義が、『落葉集』がキリシタン版の定訓字書であるという点である。定訓とは、現代で言う常用漢字訓のようなものであり、当該漢字との定着度が高く、安定してその漢字を思い浮かべさせる事が出来る訓の事である。『落葉集』の定訓については、山田(1971)が『落葉集』「小玉篇」に掲載されている漢字の左に付された訓(左傍訓)が、『落葉集』の中で安定して当該漢字の訓として用いられている事から、そこに当時の「定訓」が現れていると指摘している。『落葉集』のこの定訓字書としての特徴は、ローマ字本の背景にも漢字表記意識があった可能性を示唆するものであり、『落葉集』はキリシタン版の漢字意識を考える上で外す事が出来ない文献である。

日葡辞書は、ローマ字活字と漢字活字とを同じ版面に組版する技術的困難さと、紙幅の関係から漢字活字を用いる事が出来なかったと考えられるが、先行する『落葉集』の漢字字書、そして定訓字書の性格が、日葡辞書の漢字表記の不在を補っていると言えよう。

以上のように、キリシタン版語学辞書には、『羅葡日対訳辞書』『落葉集』、そして日葡辞書があるが、これは何れも日本イエズス会にとって必要な辞書・字書であった。この内、最後に刊行された日葡辞書は、最も大部なものであるのみならず、その辞書としての体裁について『羅葡日対訳辞書』を踏まえている点が見られ、また先行する『落葉集』に漢字表記と定訓を示す事で漢字表記の不在を補っている。日葡辞書が刊行されたのはキリシタン時代の晩年であり、それ以上新たな語学辞書を作る事が出来ない状況であり、それ故、それまでのキリシタン版語学辞書の集大成と言えるような大部の辞書を作成した可能性が考えられる。

索引

【あ行】

アウグスチノ会 38
 アジュダ 11, 15
 天草 5
 天草版 ラテン文典 20
 アルファベット 23, 24, 26-28, 33, 34,
 39, 167, 175, 226, 229, 231, 232
 イエズス会 3, 5-8, 10, 20, 45, 162, 163,
 167, 192
 伊京本 81, 162, 163
 イタリアック (斜体) 活字 5, 6, 19-21,
 23, 24, 28-35, 39, 56, 152
 異同 13, 15
 イベリア半島 3, 7, 34, 110, 120, 125,
 150, 151, 162, 173
 色葉字集 9, 153
 允許状 12-15
 印刷 5, 8, 15, 19, 20, 33, 88, 126, 175,
 180, 194, 199, 204, 219-221, 225,
 228-233, 237
 エヴォラ 11-15, 39, 40, 215, 219-221
 オックスフォード 11, 219

【か行】

開合 152, 159, 205, 206
 活字 5, 8-10, 15, 16, 19-35, 38, 39, 56, 65,
 67, 71, 88, 150-152, 219-225
 → 漢字仮名活字
 → 金属活字
 → 小文字活字
 → ローマ字活字
 → ローマン活字
 仮名 4, 8, 9, 16, 19, 34, 38, 39, 47, 65, 88,
 206
 仮名表記 4, 9, 16, 38, 47, 206
 カレピーノ, アンブロジーノ 6, 38
 カレピヌス 38, 56
 換言 21, 53, 55, 83, 84, 86, 87, 91,

98-105, 107-109, 111, 124, 132, 134, 149,
 157, 159, 163, 228
 漢語 7, 61, 66, 67, 69, 98, 101, 103, 104,
 111, 153, 157, 171, 226, 228
 漢字仮名活字 8, 9, 34, 65, 88
 漢字仮名表記 4, 8, 38, 47
 漢字表記 4, 9, 10, 37, 47, 56, 57, 62, 65,
 69, 71, 74, 75, 79, 81, 82, 84, 86-88, 99,
 107, 150, 153, 155, 157, 158, 202, 216,
 226, 237
 ぎやとべかどる 9, 20
 匡郭 219-222, 225, 233
 キリシタン版 3, 5, 7-10, 12-14, 16, 19,
 20, 24-27, 31, 33, 34, 38, 39, 41, 45, 61,
 64, 67, 71, 110, 153, 157, 174, 208, 220,
 227, 231, 233, 237-239
 → 前期キリシタン版
 → 後期キリシタン版
 金属活字 19
 組版 8, 10, 32, 33, 56, 65, 175, 210, 212,
 223, 225, 228-230, 232, 233
 黒本本 154, 162, 163
 訓釈 9, 21, 32, 34, 36, 37, 56-88, 90, 91,
 98-100, 105, 107, 113, 150-159, 181, 182,
 189, 210, 211, 216, 219, 226-228, 237
 形容詞 168, 169, 171-173, 209
 形容動詞 168, 169, 171-173, 209
 言語種 5, 6, 20, 21, 51, 56, 128
 後期キリシタン版 19, 20, 25-27, 237
 口語表現 7, 8, 167
 合字 30, 31
 こゑ 66, 226, 227
 呉音 206
 語幹 86, 169
 国字本 8, 9, 38
 語形 67, 151, 169, 202
 語根 209
 語釈構造 34, 35, 37, 53, 58, 60, 61, 64,
 89, 90, 119, 150, 151, 158, 237, 238
 語種 100-102, 104, 111, 157, 171

誤植 13, 15, 51, 64, 152
誤訂 148, 149, 198, 200, 203, 204, 206,
213
言葉の和らげ (サントスの和らげ) 45,
61, 62, 71-74, 79, 152-154, 157, 211,
227-229
小文字活字 32, 39
固有名詞 6, 151, 210

【さ行】

サカラメント提要 28, 225
サトウ, アーネスト 16
左傍訓 10, 67
さるばとるむんぢ 9
サントスの御作業 24, 61, 71, 73, 153,
157, 227
詩歌語 7, 17, 21, 22, 38, 60, 69, 83,
96-100, 103, 112-114, 116, 117, 124, 153,
157, 179, 180, 199-201, 226
字音 9, 67, 68, 76-80, 82, 86, 88
字間 31, 221, 225
字訓 9, 67, 73-82, 88, 153-155, 226, 228
字体 19, 21, 26
斜体 → イタリック (斜体) 活字
写本 11, 15
終止連体形 169, 209
儒教 132
熟語 9, 18, 80
熟字 68
熟字訓 153
小玉篇 9, 10, 67, 75, 78, 154, 155
助詞 152
助辞 133, 213
序文 6, 12-14, 16, 32, 45, 58, 60, 66, 156,
175, 194, 195, 201, 204, 210, 212, 219-
233, 237
数詞 83, 210, 211, 219, 226, 229, 230, 233
スピリツアル修行 27, 28, 231
節用集 4, 38, 81, 154, 162, 163
前期キリシタン版 19, 20, 24-26

【た行】

体言 153
代替表現 50-53, 104
置換語釈 21, 32, 34, 37, 57, 58-60, 64,

83-87, 90, 105, 106, 111, 150, 151,
154-156, 158, 181, 182, 228
通読 56, 57, 61, 62, 72-74, 79, 80, 82, 88
綴り 13, 34, 36, 95, 156, 186, 199, 200,
202, 206, 213
定訓 10, 57, 67, 68, 74-79, 81, 82, 84, 86,
88, 154, 155, 226, 237
訂正 148, 199, 200
同音異義 34, 36, 39, 122, 153
同音異字 9, 65, 68-71, 152, 153, 196-198,
211
同義語 58, 66, 93, 101, 106, 136,
143-146, 149, 180, 188
同形 200, 212
同語別音 135, 141, 159, 187, 211
同語別形 142, 144, 188, 189, 200-202,
205
動詞 47, 50, 84-86, 105, 106, 133, 139,
140, 155, 158, 169, 209, 229, 230
どちりなきりしたん 103
ドミニコ会 11, 14

【な行】

日仏辞書 16
入声 200
日本大文典 39, 152
認可状 12-15

【は行】

配列 33, 39, 95, 153, 175, 219, 226, 231,
232
派生語 34, 82, 168-173, 187-189, 209,
210, 231
バジェス, レオン 16
話し言葉 130, 131, 135, 160, 237
バラフレーズ 98, 99, 101, 102, 106, 107,
111
パリ 11-15, 40, 41, 219-221, 233
版本 15
凡例 45, 47, 231
ヒイデスの導師 25, 211
卑語 7, 17, 112, 114, 157
標題 6, 12, 13, 38
品詞 34, 169, 170, 210, 213
フィッシャーの厳密確立検定 71, 152,

157

- フォントセット 33
 複合語 68, 121, 179, 184
 副詞 22, 29, 34, 123, 168-171, 173, 209
 父型 20
 仏教 96, 132, 184, 185
 仏法語 17, 38, 96, 112, 113, 115-118,
 142, 147, 184, 185, 198, 199
 文書語 7, 17, 21, 30, 36, 38, 57, 61, 74,
 75, 77, 85, 96-100, 105, 107, 112-118,
 123, 125, 130, 133, 137, 140, 153, 155,
 157, 158, 178, 188, 189, 199, 200, 203,
 204, 213
 平家物語 231
 ベースライン 22-24, 27, 28
 別義 128, 129, 195, 196, 200, 213, 214
 編纂方針 33, 34, 62, 111, 174, 192, 219,
 230, 232, 233, 237
 補遺篇 11-15, 38, 39, 41, 49, 56, 60-64,
 75, 95, 113, 123, 134, 138-142, 147, 148,
 152, 155, 157-159, 169, 172-181, 183,
 185-192, 194-206, 208-213, 228-230, 233
 母音 213, 226
 方言 7, 17, 157, 181, 182, 210, 211
 母型 20, 32
 ボドレイ 11-15, 17, 22, 40, 219-221, 223
 ポルトガル語 3-8, 15-17, 21, 29, 31, 34,
 35, 39, 45, 49, 51, 52, 54, 56, 58, 65, 82,
 91-93, 97, 98, 103, 108, 109, 112, 119,
 125, 127, 128, 132-134, 148, 149, 152,
 156-158, 191, 197, 209, 210, 212, 216,
 237, 238
 本篇 (日葡辞書) 6, 11, 15, 38, 39, 41,
 49-51, 53, 56-58, 60-64, 68-70, 77, 83,
 84, 86, 92, 97, 98, 105, 113, 121, 131,
 134, 138-142, 147, 148, 152, 157-159,
 169, 172-181, 183-192, 194-206, 208,
 210-213, 226, 228-231, 233
 本篇 (落葉集) 9

【ま行】

- マニラ 11, 14, 219, 220
 名詞 47, 168-171, 173, 187
 → 固有名詞

【や行】

- 優劣注記 145, 146, 149, 181, 182, 211
 用言 153
 用例 3, 4, 6, 8, 17, 23, 26, 27, 39, 50, 51,
 53-56, 58, 76, 77, 82, 87, 90, 97, 106,
 108-110, 112, 114, 115, 121, 125, 134,
 149-151, 156, 157, 176, 178, 180, 181,
 183, 185, 195, 196, 200-203, 205, 206,
 210, 232

【ら行】

- 落丁 13
 落葉集 9, 10, 38, 57, 66-68, 74-78, 80-82,
 88, 153, 154
 ラテン語 5-7, 21, 34, 35, 37, 38, 49, 54,
 89, 90, 92, 95, 109, 119-121, 123, 124,
 126, 127, 131, 148-152, 157, 159, 198,
 210, 231
 ラテン文字 19, 33, 34, 71, 237, 238
 羅葡日対訳辞書 5-7, 10, 26, 32, 54-56,
 78, 103, 108-111, 120, 126, 127, 150,
 157, 174, 198, 212, 231
 リオ 11, 13-15, 41, 219-221
 立体 → ローマン (立体) 活字
 リヨン版 6, 56
 例言 12-14, 17, 185, 210, 212
 例文 8, 32, 47, 93, 114, 115, 118-120,
 123-125, 127, 128, 133, 148, 176, 181,
 183-186, 189, 191, 192, 210, 211
 連体詞 187
 連濁 84, 206
 連用形 169, 173, 209
 ローマ字活字 8, 10, 16, 19, 26, 33, 38,
 65, 88, 150, 151
 ローマ字本 8, 10, 24, 47
 ローマン (立体) 活字 5, 19-33, 35, 39,
 56, 152
 六波羅 147, 148, 198-200, 212
 ロドリゲス, ジョアン 17, 152

【わ行】

- 和英語林集成 16
 分かち書き 84, 155, 158, 184, 210
 和語 7, 69, 98, 101, 103, 104, 111, 153,

【a-z】

Baixo 26, 61, 96, 112, 157, 188
 Barbosa 150, 158, 237
 Bupp (Buppô, Buppo) 96, 98, 117, 118, 198
 Calepinus 6, 34, 150
 Cami 182, 210
 Cardoso 6, 150, 158, 237
 Coyes 66, 226, 227
 Idem (Idê) 117, 119, 120, 129-131, 148, 160, 170, 171, 185
 IE (idest, id est) 21, 32, 34, 37, 49, 51-56, 58-61, 64, 72, 83-87, 89, 90-111, 114, 115, 124, 125, 150, 152, 155-157, 159, 174, 181, 192, 211
 Item (Itê) 30, 52, 114, 119, 120, 123-131, 133, 137, 138, 143, 144, 148, 151, 155, 159, 160, 170, 184, 189, 195-197, 210, 212, 213
 Meliùs (Melius) 137, 145, 146, 160, 182, 210
 Poesia 38, 96, 97, 112, 157

Potiùs (Potius) 145-147, 182, 210
 Prólogo 219, 230
 sciliet (s.) 119, 131-134, 138, 147-149, 159, 213
 Scriptura 96, 98, 112, 157
 sic 135, 147-159, 198, 199
 suplemento (SVPPLEMENTO) 12, 175
 VEL (vel) 21, 34, 37, 39, 49-60, 64, 83, 89-95, 100, 101, 104, 105, 109, 110, 150-152, 156, 157, 159, 174, 177, 181, 186-190, 192, 211
 v.g. 119, 120, 131-134, 148, 149
 Vide (vide) 119, 120, 122, 131-149, 159, 160, 182
 Ximo 157, 182, 210, 222
 Yomis 66, 226, 227

【その他】

¶ 21-24, 26, 29, 30, 32, 34-37, 50, 52-54, 108, 113, 114, 117-130, 132, 133, 136-138, 141, 143, 144, 148, 149, 151, 152, 155, 158-160, 168, 178, 181, 183-185, 189, 195-197, 199, 210, 212, 213, 232